

バリアフリールート共有アプリ「DiversMap」

学生アプリ開発団体
Divers

キーワード

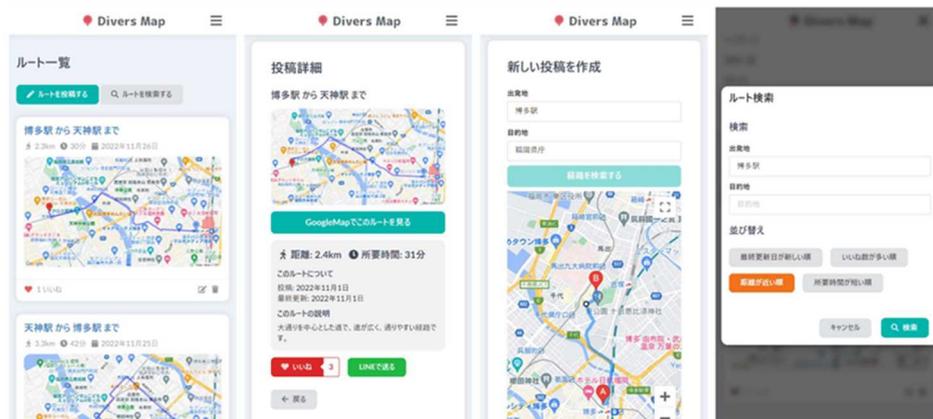
バリアフリールート情報/社会課題/車椅子利用者/点字ブロック

【開発背景】

私は、中学生の頃から車椅子を利用して、非常に困った思いをたくさんしてきました。高校生の時には、横断歩道のちょっとした段差でつまずいて怪我をしたことがあります。本当にちょっとした段差で大きな怪我につながる事があり、私は、自分も含め全ての車椅子利用者が怪我なく安全に道を通れるようにしたいという強い思いから自社のサービスである「DiversMap」を開発しています。

【システムの概要】

DiversMap は、私達がいつも通っている道は一見、何の変哲もないただの道かもしれませんが、車いすを利用されている方やベビーカーを利用されている方などにとっては非常に通りづらい道かもしれません。そこで、私達はそのような方々をターゲットとし「この道なら通りやすい!」といった情報を誰でも簡単に投稿・閲覧することが出来るシステムです。



ルートを共有する方法には、位置情報から移動した道を GPS で取得して経路を表示する方法がありますが、GPS で取得して経路を表示すると実際には道がない所や路地裏に経路が表示されてしまう問題があります。そのため、このアプリではあえて手動でルートを投稿できるようにしています。こだわった点については、通りやすいルート(道)の共有を簡単に行えるエディタを実装している点、ルートを検索する際には何を元にソートするのか(距離, 時間など)を指定できるようにしています。

【他にない特徴】

本システムでは、車いすを利用されている方やベビーカーを利用されている方をターゲットとし「この道なら通りやすい!」といった情報を誰でも簡単に投稿・閲覧することが出来るアプリで現在開発中のシステムである車椅子利用者、足が不自由な方、目が不自由な方が使いやすい道を提供できるシステムを開発しています。そのシステムは、それまでどの福祉×ITベンチャー企業も積極的に取り組んでいなかった点字ブロックの自動判別とルート反映を積極的に取り入れ、よりスマートに利用者に適したルートを提供できるようにしました。